

ポリシーブック 2025



—目 次—

1. J A 青年組織綱領	1
2. J A 山口県青壮年部 委員長挨拶	2
3. ポリシーブック実行委員名簿	2
4. J A 青壮年部とは	3
5. 山口県農業の現状	3
6. ポリシーブックをなぜ作成するのか	4
7. 課題の洗い出し	4
8. J A 山口県青壮年部の活動が課題に対し どのように活かされているのか	5
9. J A 山口県青壮年部だより	7
10. 令和7年度 JA 山口県青壮年部要望書	9

1. JA 青年組織綱領

我々 JA 青年組織は、日本農業の担い手として JA をよりどころに地域農業の振興を図り、JA 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を適確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じ環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

JA 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが JA の事業運営に積極的に参画し、JA 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた JA の発展のため、自ら組織である JA の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい JA 運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

JA 青年組織ネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(平成 17 年 3 月 10 日制定)

(注釈) 本綱領は、JA 全青協設立の経過を踏まえて「喜怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき JA 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである。

2. J A 山口県青壮年部 委員長挨拶

J A 山口県青壮年部委員長の藤岡です。

2025 年の農林業センサスにおいて、農業従事者の平均年齢が全国一位の高さという山口県農業の現実、我が県が日本一の農業衰退県だと言えらると思ひます。

その分だけ、大きく重く多くなっている諸課題を、私たち農業の担い手である青壮年部盟友こそが前向きに解決に向けて取り組まないといけなると強く感じています。

ポリシーブックを作成する事で、県青壮年部活動の可視化と課題の共有、県内盟友で結束して共に歩んでいける足掛かりにできると期待しています。

これから一歩ずつ重ねて行くことで活動の経験や知恵、そして情熱を次代に伝えていける物として確信しています。

最後に、ポリシーブック委員会を取り仕切っていただいた原田副委員長を始め、ポリシーブック作成に尽力いただきました盟友には、この場を借りて御礼申し上げます。

J A 山口県青壮年部
委員長 藤岡 義宏

3. ポリシーブック実行委員名簿

統括	役職	氏名
防府とくち青壮年部	委員長	原田 慎司
岩国青壮年部	委員	小橋 和紀
防府とくち青壮年部	委員	福田 竜男
山口青壮年部	委員	安光 洋和
下関青壮年部	委員	森本 秀信
萩青壮年部	委員	上杉 晋也

4. J A 山口県青壮年部とは

県内 11 地区の統括本部青壮年部の盟友 323 名が加入しています。農業者の結束力の強化・盟友の農業経営の発展、および県内の青壮年部の活性化を目的に J A や関連団体と連携し、山口県の農業を振興すべく活動を展開しています。また、全国農協青年組織協議会の会員であり、全国で約 5 万人の青年農業者たる構成員とともに、日本の農業の担い手として農業振興と地域社会の活性化に取り組んでいます。

5. 山口県農業の現状

現在、私たち山口県の農業は、かつてない危機の中にあります。最新の統計では、県内の農地の約 47% で 10 年後の担い手が決まっておらず、従事者の平均年齢は 72.3 歳と全国で最も高いという、極めて厳しい現実を突きつけられています。このままでは、地域の風景も、食の安全保障も維持していくことは困難です。

しかし、私たちはこの現状をただ憂っているわけにはいきません。今の私たちがあるのは、厳しい時代を切り拓いてきた先代たちのたゆまぬ努力と、この大地、そして支えてくださる地域の方々の恩恵があってこそです。私たち青壮年部が「次世代の旗振り役」となり、具体的な行動で山口の農業を未来へ繋ぐこと、それ以外に道はありません。

今年度の県青壮年部では、以下の 2 つの決意を柱に据えました。

(1) 「次世代への継承」:

農業の価値を伝え、新たな担い手が集まる土壌を拓く。

(2) 「組織の団結」:

「未来を耕せ」という合言葉のもと、盟友一人ひとりがつながり、地域の課題を提言から実践へと移していく。

この一冊は、単なる要望書ではありません。私たち農業者が「山口の農業を自分たちの手で再興させる」という誓いの書です。一人の力は小さくとも、323 名の盟友が結束し、知恵を出し合えば、必ず道は拓けます。

6. ポリシーブックをなぜ作成するのか

山口県内の農業者が直面する課題を改めて洗い出し、我々の活動がどのように地域社会や経営に活かされているのかを明確にとりまとめます。現在、新規盟友の確保や活動の充実に注力しておりますが、一方で活動のマンネリ化や、イベント対応による過度な負担など、活動の意義を見失いかねない課題も浮き彫りとなっています。活動の取捨選択と適切な労力配分を再考すべき時期に来ています。

盟友全員が青壮年部活動の価値を再確認できるよう、今年一年間の活動に全力で邁進いたします。このポリシーブックの作成を通じ、活動の意義や楽しさを共有し、将来に向けた活動や内容を精査したいと考えています。

7. 課題の洗い出し

地域(営農)についての課題		青壮年部活動についての課題	
A	農業の担い手不足	①	盟友間で情報交換や共有が足りていない
B	耕作放棄地が増加している	②	活動に参加する人が少ない
C	資材価格の高騰	③	地域によって活動に温度差がある
D	価格転嫁できていない	④	盟友に地域農業の担い手という自覚が希薄
E	自然災害リスク	⑤	自治体やJAとの連携、組織に対する理解不足
F	鳥獣被害の拡大	⑥	盟友数の減少
G	新規就農者の経営の安定	⑦	食農教育活動が少ない
H	生産技術、経営知識の不足による生産の不安定	⑧	新規就農者支援が足りていない
I	世代間のコミュニケーションが不足している	⑨	盟友と事務局とのコミュニケーションが不足している
J	農地の集約が進んでいない	⑩	JA 青壮年部として活動意義が見えづらい
K	地域計画の完成度が地域によって差があり、更新が進んでいない	⑪	農業施策に対する理解の不足
L	デジタル化・スマート化の普及が進まない	⑫	発信力が弱い
M	未婚者が多い		
N	環境への負荷が低い農業の理解が進んでいない		

8. JA山口県青壮年部の活動が課題に対し

どのように活かされているのか

イベント名	親睦スポーツ大会・視察	ゆめ花マルシェ2025	国会議員への要請活動
対応する課題番号	① ② ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩ H I	② ③ ⑤ ⑨ ⑩ ⑫ F	① ④ ⑤ ⑪
日時	7月19日(土曜日)	10月25日・26日(土・日曜日)	10月31日(金曜日)
開催場所	防府市内	山口きらら博記念公園	衆議院議員会館
主催	JA山口県青壮年部	山口きらら博記念公園活性化協議会	JA山口県青壮年部
イベント内容	ボウリング大会、たまのや農園視察、とのみ観光農園視察、懇親会	宇部統括(ネギ統)、防府統括(綿あめ)、下関統括(ジビエバーガー)、岩国(れんこん)、下関(花卉)	国会議員の林芳正氏(衆院)、高村正大氏(衆院)、岸信千世氏(衆院)、吉田真次氏(衆院)、藤木真也氏(参院)、東野秀樹氏(参院)へ全青協要望書・山口県版要望書を基に「食料安全保障の確保に向けた要請」を行った。
参加人数	視察56名。スポーツ大会50名。懇親会42名。	合計17名が参加	藤岡委員長、原田副委員長、福田(防府とくち統括)計3名。
目的	盟友、農大生、百姓鎌磨の会、4Hとの交流と研鑽。	食を切り口とした情報発信。経済活性化を目指した地域貢献活動。	山口県農業の現状報告と青壮年部活動への理解と協力を要請。
イベントを通して解決したい課題	・情報交換を行い経営上の問題点や地域の課題を共有し解決策を探す。 ・多角的な交流を通じ、地域や組織の垣根を越えた交流により、仲間の輪を広げていく。	・消費者特に子育てファミリー層への各統括の青壮年部活動をPR。 ・各組織間を超えた交流・活動による新たな成長機会の創出。	・山口県版要望書の作成を通じた県青壮年部の役員・盟友の課題の共有。 ・山口県農業の課題解決に向けた公助の要請。
アンケート・意見	・アンケート回答者は22名 ・視察、スポーツ、懇親会のどれも参加理由として高く、評価も約9割の方が満足されている。 ・開催時期は、7、8月が5割以上。1、2、3月が4割。	・土曜日天候も影響し客足が伸び悩んだが、2日間では昨年より増えてる。 ・青壮年部ブースの場所がメイン通路と離れているので、場所を変えてもらうか、誘導する方法を工夫する必要がある。 ・各統括での検討、準備期間を長く取ると助かる。	・お話を聞く機会を設けたり、日頃から繋がりをもてると、情報収集ができ、活動の幅を広げることができる。 ・
将来同じようなイベントを企画した時のアドバイス	・各統括、組織からの参加者をどう増やすか。参加してもらえると良さが伝わる。	・各統括、個人からの参加者をどう増やすか。参加してもらえると良さが伝わる。	・とても良い機会なので、多くの盟友にも興味をもって参加してもらいたい。

イベント名	山口県農業者団体交流研修会	婚活（農業青年と恋活）	Instagram・青壮年部だよりを活用した情報発信
対応する課題番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑪ ADIKJ	② ⑥ ⑬ ⑭ M	① ② ③ ⑥ ⑧ ⑩ ⑫ C G I
日時	1月18日(日曜日)	令和7年度は未実施	
開催場所	山口県JAビル	R6年 JA山口県本所	
主催	県農業法人協会、県集落営農法人連携協議会、県農村青少年クラブ連絡協議会、県農業士協会、県農協青壮年部	R6年 JA山口県青壮年部	JA山口県青壮年部
イベント内容	記念講演（須田慎一郎）、情勢報告（梅川仁樹）、パネルディスカッション（5名）	R6年 ケーキバイキング	Instagramへの投稿、青壮年部だよりの作成を通して、県役員・活動の紹介や、各統括活動を紹介する。
参加人数	合計238名	R6年 男性23名、女性18名	
目的	山口県農業の維持・拡大を目指し団体域を超えた連携。	R6年 農業男性の恋愛パートナーを探すサポートをする	青壮年部活動に対する各盟友の思いや、活動内容の魅力を広く知ってもらうことで、知名度の向上を図る。
イベントを通して解決したい課題	・5団体連携による交流と研鑽に資するネットワークの構築。 ・山口県農業における諸課題を検証し、解決への道筋を探る。	・未婚でパートナーがいない盟友が多いので出会いの場を提供する。 ・	・JA青壮年部の認知度が低い ・新規加入盟友が少ない ・他の統括の活動がわからない
アンケート・意見	・アンケート回答者は104名。 ・9割以上の方が好意的な回答。 ・準備期間が短く参加者の募集、当日の準備がギリギリ。 ・山口県農業の状況は厳しいが、前向きな意見が聞けた。	・実行委員会の立上げは早い方がよい。 ・ケーキバイキングは好評で良かった。 ・ふく太郎、ふく子も例年以上に好評である。 ・未婚スタッフの参加についても検討が必要。 ・カップル成立数、なんと8組	
将来同じようなイベントを企画した時のアドバイス	・今後の方針。 ・協議体の立上げ検討。 ・今後の取組み内容の協議。部会、出口戦略、物流、女性組織の加入、事務局体制。	・男性参加者が思ったほど集まらない可能性は高い。参加者を集める工夫が必要。 ・婚活当日の前にマナー講座を開くのも有り。	・情報の更新の頻度 ・既存のイベントにて積極的なPRを行う。

9. JA山口県青壮年部だより

JA山口県 青壮年部だより

★ ★ 2025.11.20

★発行：JA山口県青壮年部

TEL:083-976-6812

このたび、JA山口県青壮年部だよりを発行しました！
盟友の皆様への情報発信と新規盟友の獲得を目的としています。
ウラ面では、耳より情報を集めましたので、盟友間でお役立てください。



4/11通常総代会「着なれないスーツ姿で…」



7/19親睦スポーツ大会「始球式ガーターでした！」



7/19視察研修会（たまのや農園）このあと飲み会



7/19視察研修会（とのみ観光農園）ブドウでがっばり



10/31林総務大臣への要請活動「賃料があります」



10/31藤木議員への要請活動「全力で応援します」

全国大会のお知らせ

開催日：令和8年2月18日（水）
～19日（木）

会場 練馬文化センター
多くのご参加をお待ちしております！



藤岡委員長メッセージ

盟友皆さん、平素より青壮年部活動にご協力
いただきありがとうございます！我々から、
それぞれの地域から、山口県農業を発展させ
てやりましょう！

盟友からの耳より情報！ ～お得情報満載です～



インスタ
の登録も
お願いし
ます(^^)

No.	地区	内容
1	周防大島	19ミリのパッカーをお譲りします
2	周防大島	ビニールスプリングをお譲りします
3	岩国	米ぬか格安で提供できます
4	岩国	岩国青壮年部と研修・勉強会を開催しませんか
5	周南	宇部市の「ビバ！ファーム」一緒に見学しませんか？
6	防府とくぢ	苗箱200枚無料提供できます
7	防府とくぢ	修理が必要ですが管理機2台無料提供できます
8	防府とくぢ	修理が必要ですが原付バイク1台無料提供できます
9	防府とくぢ	ハウスの暖房機1台無料提供できます
10	防府とくぢ	プラスチックパレット20枚無料提供できます
11	防府とくぢ	防府ではタマネギを1月末まで定植しています。皆さんもタマネギ栽培してみませんか？苗は特価で提供できます
12	下関	堆肥を無料提供できます

必要な方は、令和8年1月20日までに
県青協事務局の福江（083-976-6812）にご連絡ください。
その際は、必要ナンバー、氏名、連絡先をお伝えください。
※対象者は盟友に限らせていただきます。

今後の情報収集の為に、資材・
機械・イベント情報など事務局へ
お知らせ頂けると嬉しいです(^^)



10. 令和7年度JA山口県青壮年部要望書

要 望 書

令和7年10月31日

山口県農協青壮年部

全国農協青年組織協議会

令和7年度JA山口県青壮年部 要望書

JA山口県青壮年部とは

県内11地区の統括本部青壮年部の盟友325名が加入しています。盟友の農業経営の発展と県内の青壮年部の活性化、農業者の結束力の強化を目的にJAや関連団体と連携し、山口県の農業を振興すべく活動を展開しています。

また、全国農協青年組織協議会の会員であり、全国で約5万人の青年農業者たる構成員とともに、日本の農業の担い手として農業振興と地域社会の活性化に取り組んでいます。

はじめに

農林水産省は将来の農地の利用方法を明確にしようと、2023年の法改正（農業経営基盤強化促進法）で全国の市町村に策定が義務づけられた「地域計画」について、今年4月末時点の内容をまとめました。全国にある農地の30%余り、山口県では47.1%の農地が10年後の担い手が決まっていないことが明らかになりました。さらに、山口県内の基幹的農業従事者の平均年齢は72.3歳（2020年）と全国平均で一番高齢という統計が出ています。

山口県農業は、担い手の確保や農地の維持において存続の危機にあり、「食料・農業・農村基本法」（2024年6月改正）の基本理念である「食料安全保障の確保」が果たせなくなる恐れがあります。

このような危機的な状況の中、我々は、山口県内の農業の担い手として、誇り高い情熱と協同の力をもって、食料の安定供給に向け明日の担い手を育成し、地域社会の発展に貢献していく覚悟です。

このため、JA山口県青壮年部は、持続可能な農業、次世代を担う農業者のために、以下の政策を要望します。

要望事項

1. 食農教育の拡充

- (1) 食農教育は、子どもたちの健全な心身の成長、食料安全保障への理解、持続可能な社会づくりに不可欠である。体験を伴う食農教育を義務教育の柱に位置づけ、学校教育における食農教育の必修化に向けて制度的強化を要望する。
- (2) 国産国消・地産地消の推進として、学校給食における地元農畜産物の使用拡大と市町村組織へのさらなる助成措置を要望する。

2. 農業人材の確保・育成

- (1) 新規就農者・親元就農者・第三者継承者・雇用経営体の雇用安定を目指すにあたり、農業次世代人材投資事業分野への制度の拡充と支援を要望する。
- (2) 新規就農者に対し、就農後の経営サポートを充実させる体制の構築、さらに就農後の補助制度の整備・拡充を要望する。
- (3) 農業従事者の高齢化に伴い、コントラクター等が果たす役割は大きくなってきている。一方で、設備や燃料等の価格高騰により、コントラクターの運営が厳しくなっているため、コントラクターへの財政支援を含め、育成・確保の促進を要望する。
- (4) 農業の人材を確保するため、公務員が副業として農業経営または農作業アルバイトを行うことへの要件緩和を要望する。

3. 農地の集積・集約化及び有効利用

- (1) 担い手への農地の集積・集約に向けて、所有者不明農地の利活用制度を含め、実務を担う農地バンク及び市町等に対する支援の拡充を要望する。
- (2) 市町が中心となって策定する地域計画や再生協議会等が中心となって策定する水田収益強化ビジョンの着実な実践による計画的、戦略的な産地づくりを推進するため、飼料用米も含めた作付け転換にかかる万全な予算の確保を要望する。
- (3) 地域計画は、随時見直すことに意義がある。農業者・地域住民に対して多面的機能の観点からも地域計画を随時見直しするよう、市町に対して指導することを要望する。
- (4) 農地の有効利用には基盤整備が必要である。また、既設の水路、農道、ため池、ライスセンター等の農業インフラの多くは、高齢化・担い手不足による維持管理不足と更新時期を迎えている。担い手への農地の集積・集約が進むように基盤整備事業の拡充を要望する。
- (5) 農地への太陽光発電の設置について、農地の一時転用許可基準や運用に自治体ごとの地域差がある。将来の営農を見据えた計画的な運用を要望する。
- (6) 耕作放棄地の再生利用のための支援拡充を要望する。

4. 適正価格の実現

- (1) 農畜産物の取引において、生産者が安定した取引ができ、再生産を可能とする合理的な農畜産物の価格形成がなされるよう、法制化を見据えた対策を要望する。
- (2) 農業生産資材の価格について、諸外国の調査を実施し、比較分析の結果を踏まえ、農業資材に関する法制度の必要な改善を要望する。
- (3) 農業生産資材や燃料価格の高騰、高止まりに対して、長引く農業経営への悪影響を緩和できる補填措置の継続、拡充を図るとともに、今後の動向を踏まえ、必要に応じた激変緩和対策の継続、拡充を要望する。

5. 鳥獣被害への対策

- (1) 鳥獣被害による収益の低下に、対策費の投下が加わるダブルの問題が顕在化している。山口県の被害は近年減少傾向にあるが、3億円を超える被害額は膨大である。被害を最小限に抑えるために、鳥獣被害について情報発信や地域ぐるみの対策強化及び拡充することを要望する。
- (2) 狩猟に携わるリスクや労働量に対して、一定の報酬を担保し、新規の狩猟についても経営部門の一つとして確立されるよう支援を要望する。
- (3) 狩猟で得た野生鳥獣の資源活用を促進するため、鳥獣被害防止総合対策交付金等補助の拡充や、ジビエや加工品への利用が円滑に進むよう、加工施設や加工業務に従事する人材への助成を要望する。
- (4) 鳥獣被害の軽減に不可欠な防護資材の高騰に対して、補助制度の強化や条件の緩和を検討されたい。また高齢化や過疎化により、防護設備の設置や維持管理が困難な状況にあることを鑑み、地域計画などを活用した効率的な運用や支援を要望する。
- (5) 山口県内のシカやサルによる被害範囲が県全域へと拡大しており、被害範囲をこれ以上拡大させないためにも、被害実態を正確に把握し、県域での対策を検討することを要望する。

6. 持続可能な農業の実現

- (1) 災害・気候変動に左右されない農業経営の確立のため、農業者の実態を把握したうえでの経営安定対策の見直し、充実を図ることを要望する。
- (2) 農業は、食料安全保障の確立、国土・環境の保全、地域経済・社会の維持、景観形成、文化維持など、多面的機能を有する。担い手の減少や高齢化により多面的機能を維持することが困難な局面になりつつある。多面的機能の維持は国民全体の責務であるため、一過性の予算に依存する

のではなく、恒久的かつ安定的な財源を確保し、その水準を維持、向上に資するよう拡充することを要望する。

以上

令和7年10月31日
山口県農協青壮年部
委員長 藤岡 義宏